（院内措置診療支援組織）

女性骨盤臓器脱診療センター

１．スタッフ

センター長　神波大己（泌尿器科教授）
副センター長　近藤英治（産科婦人科教授）
医師　４名

２．設置の目的と特徴

2023 年 4 月に女性骨盤臓器脱診療センターが設置された。　同センターの設置目的は、1）九州地区の大学病院初の婦人科及び泌尿器科合同の診療組織としてセンターを設置することにより、症状に苦しむ多くの患者に対し、より適切な医療を提供すること、2）女性骨盤臓器脱診療領域における標準的治療の開発を行い、当該技術を地域医療へ還元することに加え、広く地域社会に POP の啓発を行うことで高齢化社会における当該患者の QOL を向上させ、社会に貢献すること、の 2 つである。

骨盤底の弛緩による骨盤臓器脱（Pelvic Organ Prolapse：POP）は、骨盤内臓器がそれに接する腟を伴って腟内あるいは腟外に膨隆あるいは脱出する病態をいい、排便・排尿・性機能を障害し高齢女性の QOL を損ねる疾患で、単に子宮の脱出のみならず、膀胱瘤、小腸瘤、直腸瘤、尿道過可動、会陰体損傷を呈する複雑な複合疾病である。近年、急速に進む高齢社会において、POP に対する各臓器の機能を重視した骨盤機能再建医療の需要が高まっていることから、2014 年には腹腔鏡手術、2020 年にはロボット支援下手術が保険適応となり、症状に合わせた適正な手技を選択することが可能となっている。一方で、POP に対する治療については、これまで婦人科領域、泌尿器科領域で単独の治療が行われてきた経緯があることから、いまだ各科単独の治療による合併症に苦しむ患者が多く発生しており、適切な術式選択や学問的な体系化を進めると同時に総合的治療の提供体制の整備が求められる状況である。熊本大学病院では、これまで POP に対して婦人科と泌尿器科がそれぞれ個別に対応を行ってきたが、その診断と治療には婦人科と泌尿器科の双方からのアプローチが望ましく、双方からの視点で症例を共有し検討することで、よりよい医療を患者に提供できることが期待される。九州地区の大学病院初となる「女性骨盤臓器脱診療センター」を当院に開設することで、POP に悩む患者への最適な治療の提供が可能となると共に、不足している女性骨盤臓器脱診療を専門とする医師の育成効果も見込まれる。

３．業務内容

1）POP に対する手術術式を含めた治療方針を検討及び決定（2 ヶ月毎第 4 水曜日）し、必要に応じて両診療科の合同で手術を行う等、手術・術後の総合的ケア等をおこなう。
2）熊本県下の医療機関と POP 症例の情報共有を行うと共に、当該医療機関向けに研修会等の教育活動を実施する。
3）ウロギネコロジーを専門とする医師及び専門的知識を持つ看護師等メディカルスタッフを育成する。
4）地域住民を対象とした POP に関する情報提供・啓発（市民セミナー等）を実施する。
5）院内で POP 症例に関する情報共有を行う。（データベース化）
6）POP 分野について学問的に体系化する。

４．診療実績

新来数

2023 年	40
2024 年	46

女性骨盤臓器脱診療センター設置後の手術件数

術式（2023 年 4 月～2025 年 6 月）	
NTR（Native tissue repair）	7
経腟メッシュ手術	38
仙骨腟固定術	腹腔鏡下：7 ロボット支援下：9
中部尿道スリング手術	6
腹腔鏡下膀胱腟瘻修復術	2
ボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法	2
合計	71

５．今後の展望

着実に実績を重ねており、泌尿器科・産科婦人科の相互理解・協力関係が深まっていると同時に、両診療科の目で総合的な診療を患者に提供できることで患者側のメリットも高まっていると考えられる。

今後、このセンターの活動を積極的に広報し、診療の質と量を高めてゆく。さらに次年度以降は研修会などの教育活動や市民公開講座などの啓蒙活動も展開したい。